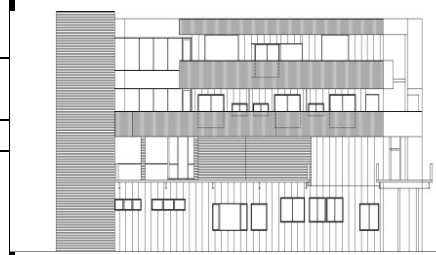


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	あらき整形外科医院工事	階数	地上4F
建設地	八代市萩原町1丁目263、264、265、	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	50 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	9,000 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年10月8日
敷地面積	1,840 m ²	作成者	伊東 正太郎
建築面積	871 m ²	確認日	2014年10月9日
延床面積	2,464 m ²	確認者	吉永 拓郎



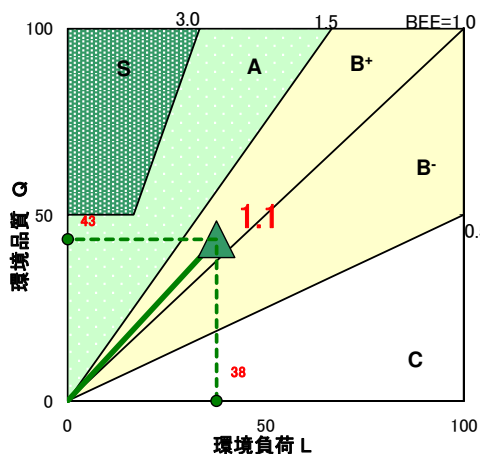
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.1

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

80%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

82

評価点

■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】温室効果ガス排出量削減の推進

87.5

【重点事項2】安全安心で暮らしやすい社会の実現

73.7

【重点事項3】県の地域資源の有効活用と保全

82.5

【重点事項4】循環型社会の実現

77.2

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★★
80点以上100点未満	★★★★★
60点以上80点未満	★★★★
40点以上60点未満	★★★
40点未満	★

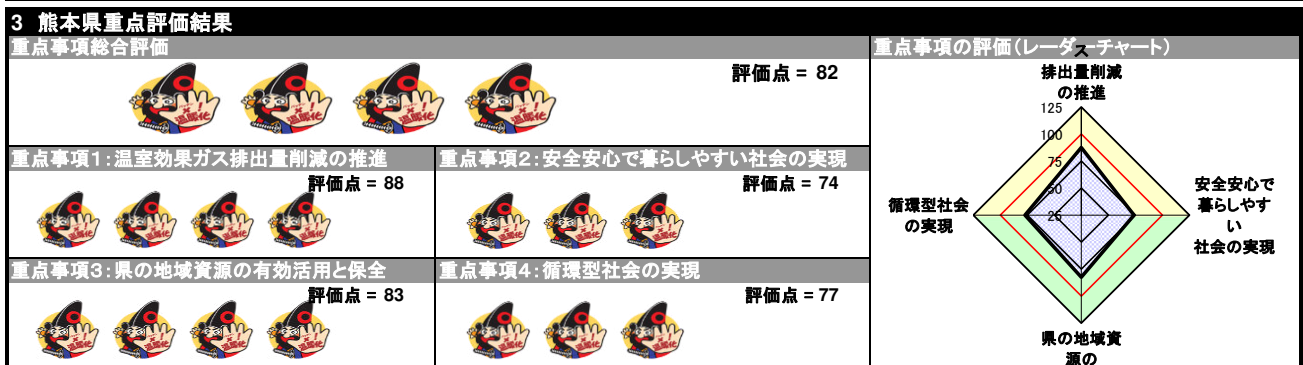
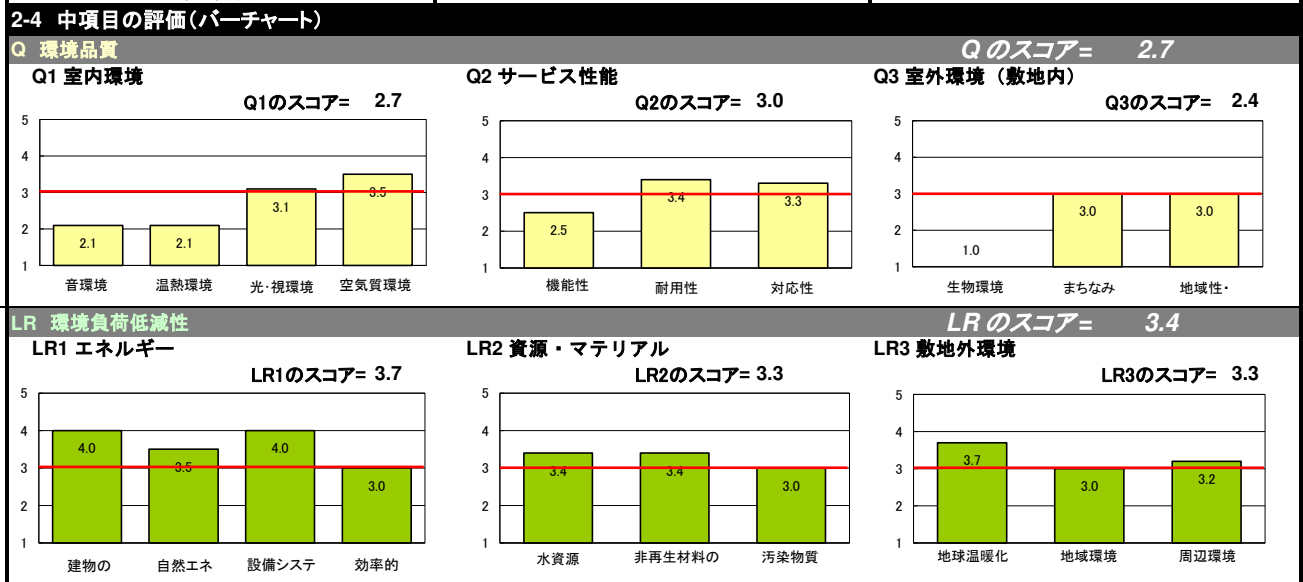
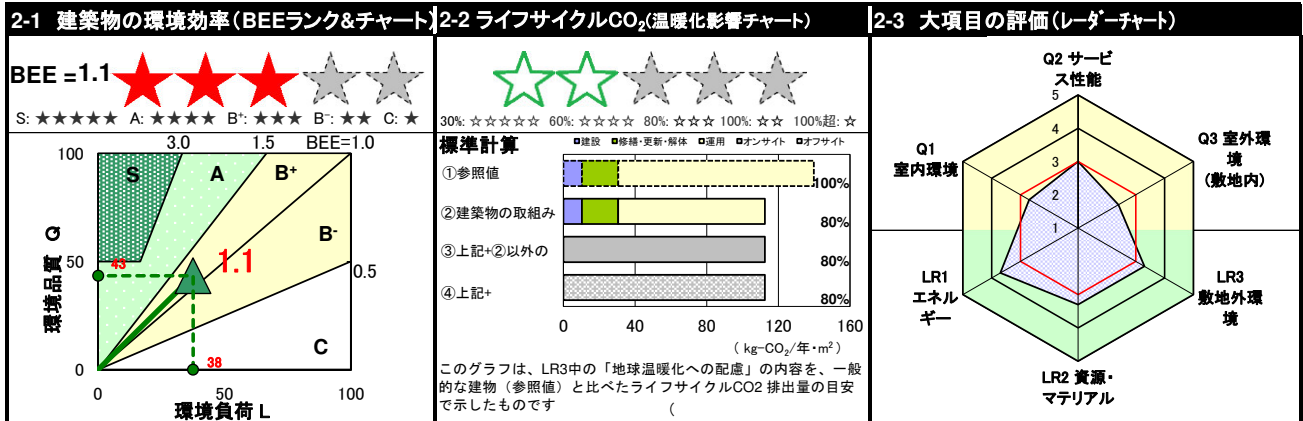
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終る2015年3月までの期間限定で使用できます。

■使用評価マニュアル: CASBEE-熊本(建築版) 2010年補綴版Ver.2 (BPL&B&B) I使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpl&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	あらき整形外科医院工事	階数	地上4F
建設地	八代市萩原町1丁目263、264、265、	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	50 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	9,000 時間/年
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年10月8日
敷地面積	1,840 m ²	作成者	伊東 正太郎
建築面積	871 m ²	確認日	2014年10月9日
延床面積	2,464 m ²	確認者	吉永 拓郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建物は敷地境界線より、極力後退した位置とする。
敷地や建物各所に植栽を設け、良好な景観とした。

Q1 室内環境

開口部は大きめの窓や吹抜けを各所に設け、風の通り抜けも考慮した配置とすることで、採光・通風を確保した。
屋根はグラスウール24K t 100、外壁はウレタン吹付 t 15を施し断熱性の向上を図った。
使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止する。

Q2 サービス性能

多目的便所等の設備を各所に適正配置し、高齢者に優しい仕様とした
内装は、壁はクロス仕上、天井はボード仕上、床はCFシートを主とし、メンテナンスの簡素化、低コスト化を図った。

Q3 室外環境（敷地内）

建物の屋上には植栽を設け、環境の向上を図った。
又、室外機器は排熱が通行に支障をきたさないよう配置した。

LR1 エネルギー

外部窓の居住時間が長い個室等にはベランダを設け、太陽光を遮るカーテンを設置した。
トップライトや吹抜けなど太陽光を利用できるようにした。
節水型の機器やLED照明などを取り入れ、省エネ化を図った。

LR2 資源・マテリアル

コンクリート一体型のデッキスラブやラムダなどを使用し、材料量の削減を図った。
乾式工法を各所に用い、分別化や再利用できるように配慮した。

LR3 敷地外環境

建物は境界から離し、近隣住宅地への日照、通風の障害を避けた。
また、車寄せや駐車場・駐輪場を設け、渋滞が起こらないよう配慮した。

その他

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補
あらき整形外科医院工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI&BEI対応)
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.40			2.7
1 音環境		2.1	0.15	2.8	1.00	2.1
1.1 騒音		3.0	0.40	5.0	0.40	
1 室内騒音レベル	待合: 50dB、個室: 35dB T-1	3.0	1.00	5.0	1.00	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		1.8	0.40	1.6	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境		2.1	0.35	1.9	1.00	2.1
2.1 室温制御		2.5	0.50	2.1	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		1.0	0.25	1.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		3.0	0.25	3.6	1.00	3.1
3.1 屋光利用		4.2	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率	共用部: 5.6%(2階待合)、住居部: 7.4%(2階個室1)	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30	
1 照明器具のグレア	住居部: カーテン+庇(個室)	-	-	-	-	
2 屋光制御		2.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.5	1.00	3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆以上	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.0	0.30	2.6	0.38	
1 換気量	住居部: 0.09 > 0.067(1/15) (2階個室1)	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物内禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		2.4	0.40	4.0	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	住居部: 個室10㎡以上	-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観	住居部: 個室天井高2.5m	-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.4	0.31	-	-	3.4
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-	
1 耐震性	25%増(病院用途)	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上使用、E不使用	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備	非常用発電機、地上設置	3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.3	0.29	3.0	1.00
3.1 空間のゆとり		共用部:0.17、住居部:0.34	3.4	0.31	3.0	0.50
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	3.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-
1	空調配管の更新性	構造材を痛めずに更新できる(配管ビット) 構造材、仕上材を痛めずに修繕・更新できる 構造材、仕上材を痛めずに修繕・更新できる	3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制		カーテン、断熱材	4.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用	吹抜け	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率設備	4.0	0.30	-	-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		#VALUE!	4.0		-	-
集合住宅の評価			3.0		-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1	節水	節水型機器	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減	再生クラッシュラン	3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		高効率設備	3.7	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止	駐車場、駐輪場、管理車両スペース	3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		4.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		光害対策ガイドラインの過半を満足	3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		2.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 あらき整形外科医院工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		81.7
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.5	0.40	35.00
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				73.7	0.20	14.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				77.2	0.20	15.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数